一般

平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務	事業名	近郊自然步道整備事業	事業コート゛	0242			
担当課等	所属名	環境部 環境企画課			担当係名		
	課長名	環境部 環境企画課	担当者名	佐々木	歩美	電話番号	8417

1. 事務事業の基本情報

	施策の柱	環境との共生	コード	施策	かけがえのない自然との共生	コード						
			コード		一般会計 4款 1項 4目 自然環境等保全事業							
総合計画体系	基本事業	自然資源の活用	1	関連予算 費目名								
	特記事項	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·										
事業期間	○ 単年度	● 単年度繰返	ママス マスティス マスティス マスティス マスティス マスティス マスティス マイス マイス マイス マイス マイス マイス マイス マイス マイス マイ	年度	⇒ (開始年度 46年度~)							
事務事業の概要	東 市民の自然保護意識を高めるため、身近に自然に触れ合う場として、市が設定した散策路(近郊自然歩道)の適切な維持管理を図る。											
根拠法令等	「盛岡市環境基本条例」、「盛岡市自然環境及び歴史的環境保全条例」及び「盛岡市環境基本計画」											
この事務事業を開	始したきっか	いけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)										
自然環境の保全	市民の自然に	二対する愛護意識の啓発及び自然豊かな都市形成を	を目指し、ほ	沼和52年から=	コースを開設整備した。							
この事務事業に対して関係者(市民, 議会, 事業対象者, 利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか												
新規コースの設定(H16年度まちづくり懇談会),既存コースの標識等の補充の要望がある。												
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどう変化したか。今後の見通しはどうか												
少子高齢化社会等に伴う余暇需要の増大や,市民の自然環境への関心が高まっている。今後は玉山地域における新規コース設定の可能性について検討する必要があ る。												

2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を,何を対象	市民	⇒	②対象指標 (対象の大きさを	A. 盛岡市人口	単 位	人
としているのか)			示す指標)	B. コース数	単 位	個所
				C.	単 位	
③手段 (事務事業の内	22年度実績(22年度に行った主な活動) ①コースの開設整備	⇒	④活動指標	A. コースの巡視活動と草刈払い作業日数	単位	日
容, やり方, 手順)	②市民への広報活動 ③コースマップの作成 ④コースの草刈払い		(事務事業の活動 量を示す指標)	B. コース標識の修理個所数	単 位	個所
	(4)コースの草刈払い ⑤コース標識の修理			C. コースマップの印刷数	単位	部
	23年度計画(23年度に計画している主な活動)					
	22年度と同じ				Ш	
⑤意図	近郊の里山等に生育生息する植物や野鳥等との自然のふれあいを通じて自然環境の大切さを対象に理解しても	⇒	⑥成果指標	A. コースマップを持帰った数量(概算)	単 位	部
(この事業により対象をどのように	らうことによって、対象の環境保全及び自然愛護意識を高める。		(意図の達成度を 示す指標)	【指標の性格: ● 上げる ○ 下げる ○ 維持する】	\perp	
変えるのか)				B. 【指標の性格:○ 上げる ○ 下げる ○ 維持する】	単 位	
				C. 【指標の性格: 上げる 下げる 維持する】	単 位	
⑦結果	自然に親しむ機会が多くなる	⇒	⑧上位成果 指標	近郊自然步道設置総延長(単位:km)		
(上位基本事業 の意図:上位の 基本事業にどの ように貢献する か)			(上位基本事業の 成果指標)			

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	盛岡市人口	人	297,592	297,267	297,267	291,880	291,880		年度
対象 指標B	コース数	個所	9	9	9	9	9		年度
対象 指標C									年度
活動 指標A	コースの巡視活動と草刈払い作業日数	日	13	11	11	12	12		年度
活動 指標B	コース標識の修理個所数	個所	6	5	5	3	5		年度
活動 指標C	コースマップの印刷数	部	1,000	500	500	500	500		年度
成果 指標A	コースマップを持帰った数量(概算)	部	1,000	1,000	1,000	500	500	·	年度
成果 指標B									年度
成果 指標C									年度

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	****
事業費	A	千円	456	538	536	421	536		****
財源	4a	千円							****
内訳	⑤県	千円							****
	⑥地方債	千円							****
	⑦一般財源	千円	456	538	536	421	536	0	****
	⑧その他	千円							****
	合 計(④~®) (=A)	千円	456	538	536	421	536		****
	延べ業務時間数	時間	880	880	880	880	880		****
耶	戦員人件費 (B) (臨時職員賃金は, 事務費に含む)	千円	3,520	3,520	3,520	3,520	3,520	0	****
	トータルコスト (A) + (B)	千円	3,976	4,058	4,056	3,941	4,056	0	****

3. 事務事業の評価(See)

	@15 to 11 to 12 to 14	
必要性評価	①施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか?	● 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ● 結びついている
評		理由:身近にある自然の中を散策することにより,自然愛護意識の向上につながっている。
価	②公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか? 税金を使って達成する目的ですか?	見直す余地がある妥当である⇒ 4. 事務事業の改革案へ
		□「妥当」とする理由: 法定事務である 内部管理事務である ● その他
		理由: 市道や林道等, 市民が普段利用している道を活用していること, また, 自然環境の保全は市民の理解や協力を得ながら行う必要があることから, 行政が行うべきである。
	③対象の妥当性 対象の設定は現状のままでいいですか? 広げら れませんか? また絞らなくてよいですか?	拡大または絞る余地がある⇒ 4. 事務事業の改革案へ■ 現状で妥当である
		□「妥当」とする理由: 法定事務である 内部管理事務である ● その他
		理由:身近な自然と触れ合える散策路の整備は市民を対象として実施すべきである。
	④意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりし て、成果向上できませんか?	拡大または絞ることができる動 現状で妥当である⇒ 4. 事務事業の改革案へ
		└「妥当」とする理由: ○ 法定事務である ● その他
		理由: 身近にある自然と触れ合うことは、環境保全及び自然愛護意識の高揚に有効であるため。
有効	⑤成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか?	● 向上余地がある ○ 向上余地がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ
有効性評価		その内容:周知方法の改善と、新規コースの設定により、市民が自然と親しむ機会を拡大することで成果の向上が 期待できる。
	⑥廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか?	○ 影響がない● 影響がある⇒ 4. 事務事業の改革案へ
		その内容: 市民が自然と親しむ機会があることは貴重であり、またニーズもあることから、事業の廃止・休止はできない。
	⑦類似事務事業との関係 類似の事務事業(国, 県, 市の内部, 民間)はありませんか?	● 類似事業がある ○ 類似事業がない
		事業名:岩手県:長距離自然歩道整備事業(東北自然歩道), 市都南総合支所:環境整備推進事業
		 ※類似事業がある場合,その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか?
		統廃合・連携検討 ○ できる ○ できない → 4. 事務事業の改革案へ
		理由:長距離自然歩道整備事業は、環境省がコースを設定し、県が整備・管理しているため、市内に設定しているコースは少ない。また、環境整備推進事業は、地域振興の意図で行っている事業であるため、当事業との統廃合等は困難である。
効率性評!	⑧事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を節減できる余地はありませんか?	○ 削減余地がある● 削減できない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ□ ■ <p< th=""></p<>
猫		理由:委託業務を部分的に直営化することにより事業費の削減に努めており、これ以上の削減はできない。
	(⑨人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減す る余地はありますか?	○ 削減余地がある● 削減できない
		理由:業務時間数は最小限にとどめているため、これ以上の削減はできない。
公平性評価	⑩受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか?	適正化余地がある⇒ 4. 事務事業の改革案へ公平・公正である
評価		特定の受益者はいない
	(4) 弗里名セの文エルム地	理由:誰でも自由に利用できるものであるため、受益機会は公平・公正である。
	①・費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか?	適正化余地がある⇒ 4. 事務事業の改革案へ特定の受益者はいない
		 理由:コースは主に公衆用道路を活用しているため,利用者に費用負担を求めることはできない。

4. 事務事業の改革案(Plan)

改 ①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など)
※複数ある場合は、代替案その1、代替案その2とすること
代替案その1:「新規コースの設定」の検討
② 改革、改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか? それをどう克服していきますか?
(関連部門や全庁的な調整の必要性、トップへの要望も含む)
「新規コース設定」の検討については、平成18年度から実施している玉山区の自然環境調査事業の成果を活用し、検討する。

5. 課長意見

	* TC/00/7C			
	(1)一次評価者と	こしての評価網	· : : :	(2)全体総括(振り返り, 反省点)
一次評価	① 必要性	● 妥当	○ 見直し余地あり	既存コースの点検、維持管理に努めた。事故等はなかった。
価	② 有効性 :	● 妥当	○ 見直し余地あり	" <mark>-/</mark>
	③ 効率性 :	● 妥当	○ 見直し余地あり	
	④ 公平性 :	● 妥当	○ 見直し余地あり	
	(3)今後の事務の	の方向性(改革	古改善案)	
今後の方向性と改革改善案	□ 終了 ⊠ 継紙□ 廃止 □ 休」	-	□ 現状維持(従来通りで特局 ひま改善を行う 事業統廃合・連携	に改革改善をしない)
改革改善			$\overline{\bigcirc}$	
案	方向付けの理問	由と改革改善の	の内容	
	当面, 通常 成果を見な	の維持管理を がら、結論をと	行う。玉山区のコースの設定につい ^っ 出すこととする。	ては、玉山区で行っている自然環境調査(23年度総括報告書作成,調査終了)の